

トビウオ通信 (H24 第 9 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 24 年度下半期浮魚中長期漁況予報》

平成 24 年 10 月末に長崎市で開催された東シナ海～日本海南西海域の対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の平成 24 年度下半期（11～3 月）の中・長期的な漁況予測をします。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔平成 24 年度下半期(11～3 月)〕

マアジ:前年を下回る

マサバ:前年並み

マイワシ:前年並み

カタクチイワシ:前年を下回る

ウルメイワシ:前年を下回る

※ 平年：過去 5 年間の平均値

マアジは前年を下回る

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 平成 19 年まで減少傾向にあった東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は平成 20 年からやや増加傾向に転じ、平成 23 年は前年を上回りました（図 1）。平成 24 年は 1～9 月の漁獲量が約 2 万 6 千トンで、前年をやや下回って推移しています。沖合域の今後（11～3 月期）の漁況は来遊量が前年並みであることを反映して前年並みであるとみられています。

一方、同海域の沿岸域における平成 24 年 4～8 月期の漁獲状況は、前年並みとなりました。今後（11～3 月期）の漁況は、前年を下回ると予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網による平成 12 年以降のマアジ漁獲量は 3 万トン前後で推移しています。平成 24 年の 1～9 月のマアジの漁獲量は約 1 万 7 千トンで、前年同期の 1.5 倍、平年同期の 0.9 倍でした。今年は 1～3 月と 5 月にかけてまとまった漁獲があり、その後は 500～2 千トン台と低迷しました。

例年、11～3 月期は 0・1 歳魚が漁獲の主体で、2 歳魚以上も漁獲されます。毎年、島根県、鳥取県および日本海区・西海区水産研究所が行っているマアジ新規加入量調査※（マアジ 0 歳魚の山陰沖への来遊量を調べる調査）の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数は前年を上回りましたが、7 月から漁獲量が低迷しているため 0 歳魚（H24 年生まれ）は前年並みもしくは前年を下回ると考えられます。1 歳魚（H23 年生まれ）と 2 歳魚（H22 年生まれ）の豊度は、これまでの漁況経過から、それぞれ前年を下回ると考えられています。従って、山陰沖の今後（11～3 月期）の漁況は、前年（約 1 万 6 千トン）を下回ると予測されます。

※マアジ新規加入量調査の詳細については「トビウオ通信 H24 年第 5 号（平成 24 年 7 月 23 日発行）」をご覧ください。

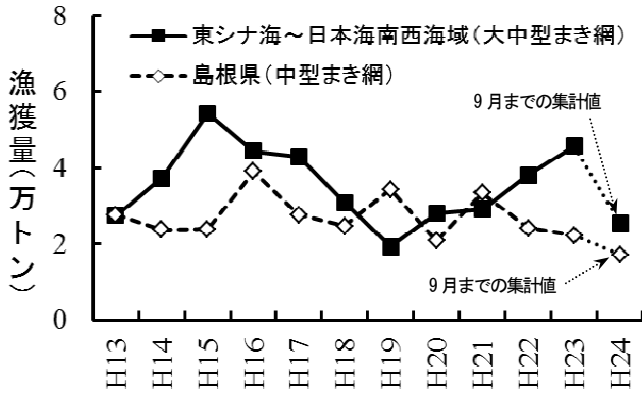


図 1. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマアジ漁獲量の推移
※H24 は 9 月までの集計値

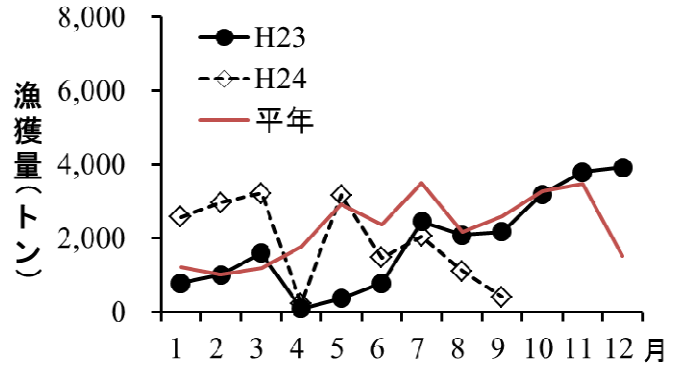


図 2. 島根県の中型まき網によるマアジの月別漁獲動向

マサバは前年並み

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成 19 年以降増加傾向にありましたが、平成 21 年から減少傾向となり平成 23 年は前年を下回りました（図 3）。平成 24 年は 1～9 月の漁獲量が約 2 万 7 千トンで、前年を上回って推移しています。沖合域の今後（11～3 月期）の漁況は来遊量が前年並みであることを反映して、前年並みであるとみられています。一方、同海域の沿岸域における平成 24 年 4～8 月期の漁獲状況は、前年を上回りましたが、直近までの漁獲状況から今後（11～3 月期）の漁況は、前年を下回ると予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は平成 17 年以降増加傾向にあり、平成 22 年に漁獲量が低下したものの、平成 23 年は前年を大きく上回りました。平成 24 年の 1～9 月の漁獲量は約 8 千トンで、平年同期の 1.4 倍、前年同期の 1.2 倍でした（図 4）。例年、10 月以降が主漁期となり、0 歳魚主体の漁獲で 1 歳魚以上が混じります。0 歳魚（H24 年生まれ）、1 歳魚（H23 年生まれ）の豊度は、各種調査結果と漁況経過からそれぞれ前年を上回る、前年を下回るとされ、全体の来遊量は前年並みと考えられています。従って、山陰沖の今後（11～3 月期）の漁況は、前年（約 1 万 2 千トン）並みと予測されます。

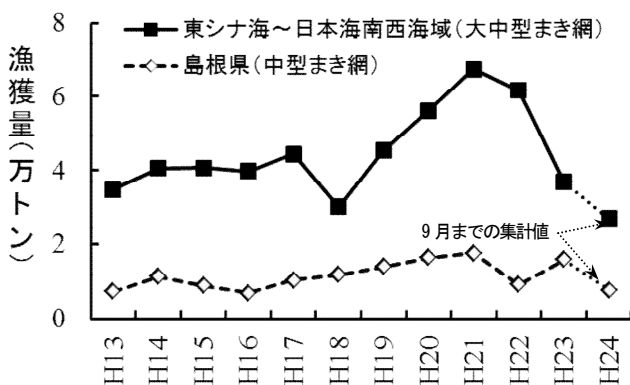


図 3. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマサバ漁獲量の推移
※H24 は 9 月までの集計値

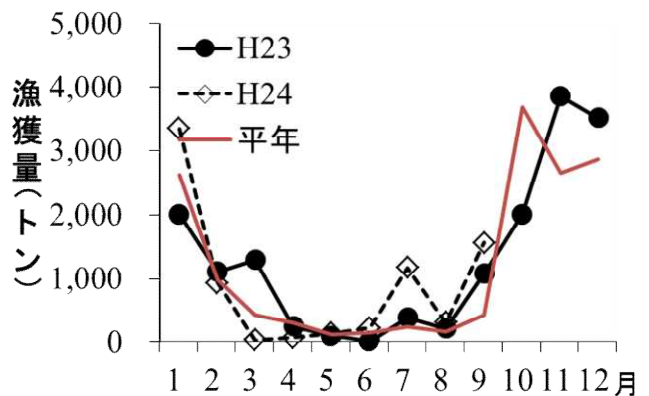


図 4. 島根県の中型まき網によるサバ類の月別漁獲動向

マイワシは前年並み

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は平成 15 年以降ゆるやかな増加傾向にあり、特に平成 23 年は 2.5 万トンで豊漁となりました。平成 24 年は 4～5 月に 2 歳魚（H22 年生まれ）を中心としたまとまった漁獲があり、1～9 月の漁獲量は約 1 万 4 千トンと前年同期には及ばなかったものの、平年を大きく上回りました（図 5）。

山口県～長崎県の沿岸域では、4～8 月期は福岡県が前年を上回り、他県では前年を下回る漁況でした。平成 24 年生まれの豊度の評価は難しいですが、漁況の経過から前年を下回ると思われます。本県沿岸における今後（11～3 月期）の漁況は、1～2 歳魚が漁獲の主体となり、10 月も約 1 千トン（速報値）とやや前年を上回るまとまった漁獲があることから前年（約 2 千トン）並みになると予測されます。

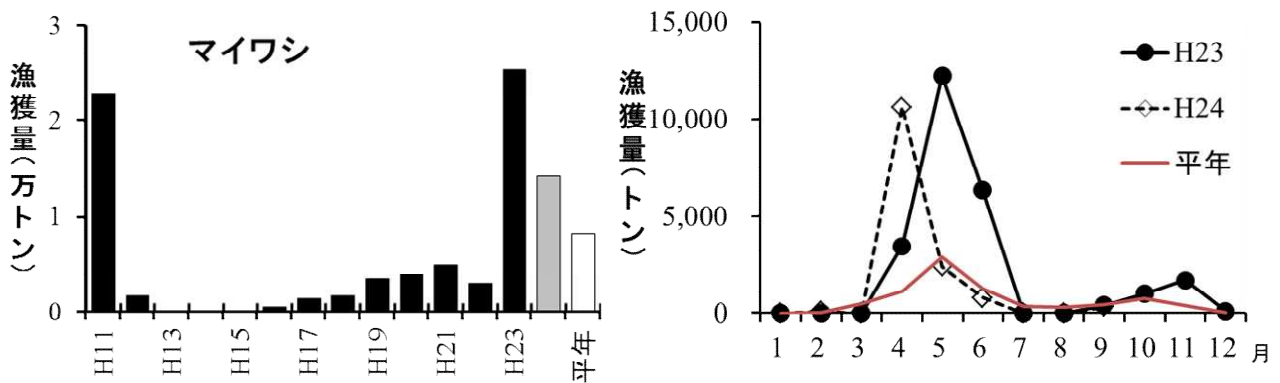


図 5. 島根県中型まき網によるマイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H24 年は 9 月までの集計値

カタクチイワシは前年を下回る

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成 13 年に漁獲が激減した後、増減しながら 3 万トン前後で推移しています。平成 24 年のこれまでの漁況は、主漁期である 3～4 月にはほとんど漁獲されなかったものの、9 月に月別では過去 10 年で最大となる約 7 千トン漁獲されたため、1～9 月までの漁獲量は約 1 万 2 千トンで、前年・平年同期の 0.7 倍でした（図 6）。

過去 5 年間でみると、11～3 月期は 3 月以降が主漁期で、1・2 歳魚が漁獲の主体となるのですが、今年は 9 月に 1・2 歳魚を中心とした豊漁がありました。山口県～鹿児島

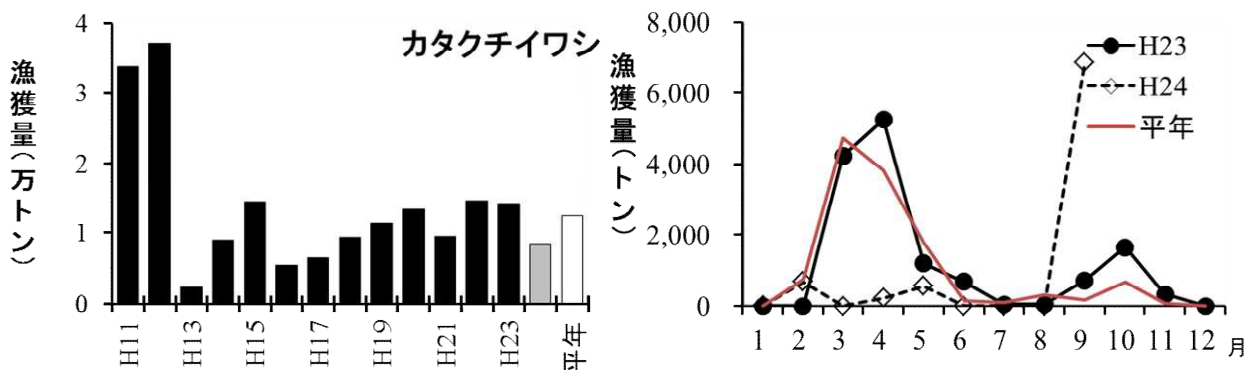


図 6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H24 年は 9 月までの集計値

県におけるこれまでの漁況の経過からカタクチイワシの平成 23 年春生まれは前年並みであるとされています。本県では 10 月に約 2 千トン(速報値)と前年並みの漁獲が続いていることから秋魚の漁獲が主体になると思われ、春魚の漁獲量は減少する可能性が考えられます。従って、沿岸における今後(11~3 月期)の漁況は、11~12 月が主漁期になり、前年(約 1 千トン)を下回ると予測されます。

ウルメイワシは前年を下回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成 14 年以降 4 千~6 千トンで安定して推移していましたが、平成 22 年から漁獲量が増加し、平成 23 年は過去 10 年間で最高の約 1.6 万トンとなりました。

平成 24 年のこれまでの漁況は、2 月と 5 月にまとまった漁獲があり、1~9 月までの漁獲量は約 3 千トンで、前年同期の 2.2 倍・平年同期の 0.8 倍で推移しました(図 7)。

例年、11~3 月期は 0・1 歳魚が漁獲の主体となります。山口県~鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過から、0 歳魚(H24 年生まれ)の豊度は前年並みか上回り、1 歳魚(H23 年生まれ)は前年と同程度であると考えられています。また、本県は 10 月に入り約 4 千トン(速報値)のまとまった漁獲があり、前年並みの漁獲となっています。従って、本県沿岸における今後(11~3 月期)の漁況は、前年(約 1 千トン)並みではあるものの前年(約 7 千トン)を下回ると予測されます。

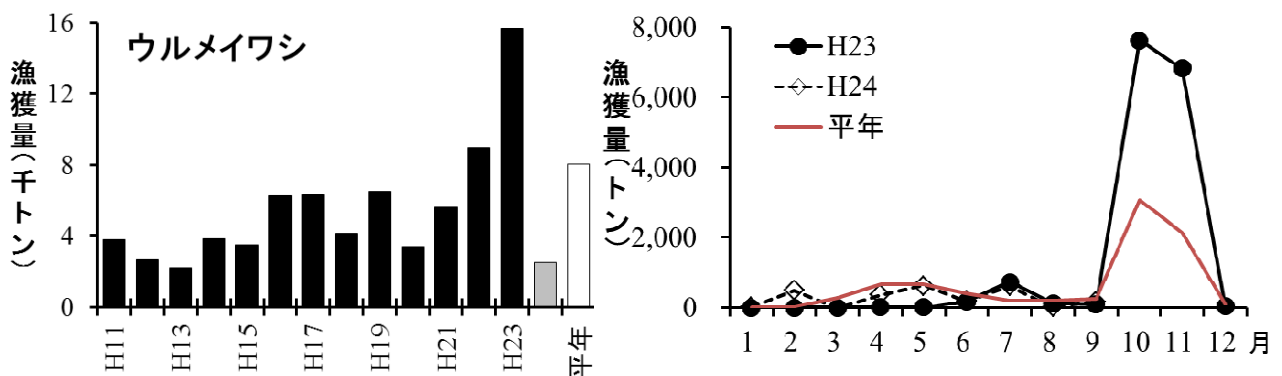


図 7. 島根県中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向(左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す) ※H24 年は 9 月までの集計値